

旭川市新型コロナウイルス感染症対策基金活用検討会（令和4年度第1回）会議録

日時	令和4年8月26日午後6時30分から午後7時30分まで
場所	旭川市議会棟 第1応接室
出席者 (参加者)	7名 川口勤, 木下俊吾, 早苗隆宣, 滝山義之, 熊谷総合政策部長, 鈴木保健所長, 野崎総務部長
出席者 (事務局)	5名 (総務部総務課) 宮川次長, 高倉補佐, 紺野主査 (総合政策部財政課) 小澤課長, 新田主査
会議の公開	公開
傍聴者	なし
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 旭川市新型コロナウイルス感染症対策基金について ・資料2 旭川市の新型コロナウイルス感染症対策基金充当事業一覧 ・資料3 新型コロナウイルス感染症対策に関する第4次追加対策に係る新型コロナウイルス感染症対策基金の充当事業 ・資料4 新型コロナウイルス感染症対策に関する第5次追加対策に係る新型コロナウイルス感染症対策基金の充当事業 ・資料5 新型コロナウイルス感染症対策予算 ・参考資料 旭川市新型コロナウイルス感染症対策基金活用検討会開催要綱 ・参考資料 旭川市新型コロナウイルス感染症対策基金条例 ・参考資料 旭川市新型コロナウイルス感染症対策基金活用検討会参加者名簿

1 開会

(野崎総務部長)

お忙しい中、お集まりいただいた。基金期限の廃止に伴い、検討会参加の皆様には、任期の1年間延長に御承諾いただき、心から感謝申し上げます。昨年度は新型コロナウイルス感染症流行拡大により、至急の対応が必要な案件が多く、検討会を開催出来ずお詫び申し上げます。新型コロナウイルス感染症対策基金は、感染確認から2年程度でアフターコロナを期待し、令和4年3月末までの期限で基金を設置したが、現在第7波と流行が繰り返される度、感染者が増えていく状況。その状況を踏まえ、期限を廃止し引き続き感染症対策全般に活用できる貴重な財源とするため条例改正を行ったことを報告させていただく。

令和2年6月に設置した基金は、この7月末までに申込みも含め5億1,469万5千円と多額の寄附をいただいた。この基金を活用し本市新型コロナウイルス感染症対策として実施した事業実績は、昨年度までで医療保健対策で、約1,300万円、市民生活対策

で約300万円、経済対策として9,500万円、合計1億1,000万円程度を活用させていただいた。令和4年度予算では、発熱外来体制確保に係る費用や、市民が利活用する施設への感染予防対策用品の購入、コロナ禍で減収となる事業者への支援などに活用しているほか、令和4年度第3回定例会では、抗原検査キットの配布やクラスター発生医療機関への支援なども行っていきたいと考えているところ。新型コロナウイルス感染症発生から2年半余りが経過し、今なお収束が見通せない状況。今後も状況に応じた対応を適宜行っていく必要があり、本日は第3回定例会に提出予定の補正予算の内容について説明させていただき、残り1億1,000万円となる基金の使途も、いただいた意見を参考に有効活用を図っていききたいと考えている。皆様方の忌憚のない意見を伺い、今後も変わらぬお力添えをお願いしたい。

2 報告事項

旭川市新型コロナウイルス感染症対策基金の現状について

(進行役)

旭川市新型コロナウイルス感染症対策基金の現状について、事務局より説明願う。

(事務局)

資料1は基金設置以降いただいた寄附と活用額をグラフ化し、左側が寄附額の推移、右側が活用事業。本基金はこれまで寄せられた多くの寄附を形にしたもので、令和2年度に約3億7,354万4千円、令和3年度は約1億3,821万9千円、令和4年度は7月までで約2億9,332万2千円、合計で約5億1,469万5千円いただいた。令和3年度からは、寄附の一部をふるさと納税にかかる経費に充当する変更があり、経費分5,548万6千円を差し引いた約4億5,921万円が基金積立額となる。グラフの点線部分が7月末の実績。

資料2は、令和2年度の基金設置から令和4年度の当初予算までに本基金活用事業を一覧にしたもの。令和2・3年度は実績、令和4年度は予算計上額を記載している。令和2年度には、福祉施設に対するPCR検査費用を助成する事業や、売上げが減少している小規模事業者への支援、令和3年度には引き続きPCR検査費用助成事業や市民が利活用する施設等への衛生用品の購入、子ども食堂等の衛生対策支援への支援、一部医療従事者や妊産婦等にクリーニング券を配付するクリーニングサポート事業を始め、事業者、農業者への支援、企業のテレワークやITの推進等を支援する事業などに活用してきたところ。また令和4年度では、これまで地方創生臨時交付金を活用してきた、発熱外来構築体制構築費に本基金を活用したほか、引き続き衛生対策への支援やイベントにおける感染対策への支援なども行う。これらを含めこれまでの活用額は、1億8,545万8千円となっている。

資料1のグラフに戻り、縦線の赤い頂点は7月末までの活用額の実績、9月に山が一つ上がるのは8月24日の追加補正分で、詳細は後ほど報告する。事業費約1億2,200万円を追加し寄附金の推移を見込んだ令和5年度末の数字だが、右側緑の枠内記載の寄附金4億6,906万円から活用額2億8,765万円を引き、さらに活用検討額7,000万円を引いた約1億1,000万円が活用可能見込額となる。活用内容を目的別に整理したのが円グラフで、経済対策、医療保健対策、感染症対策等のおおよその割合となっている。

(進行役)

資料1, 2について事務局より説明があった。質問等あるか。なければ, 次の資料の説明を聞き, 質問等をまとめて伺う。

3 検討事項

旭川市新型コロナウイルス感染症対策基金の活用について

(進行役)

では検討事項, 今後の基金の活用について事務局から説明願う。

(事務局)

財政課から資料3, 4, 5について説明する。資料3は第4次追加対策で, 先ほどの話にもあったが新規感染者急増に伴い緊急施行を要することから, 8月24日に補正予算として専決処分した内容。事業は, 新型コロナウイルス感染症対策費として1億219万8千円で2項目, 一つが抗原検査キット配付判定事業という新規事業で1億187万8千円計上した。第7波の感染急拡大による医療提供体制の逼迫を回避するため, 市内医療機関の受診を経ることなく抗原検査キットを有症状者に配付して陽性判定を行い, 自宅療養及び健康観察につなげる体制を委託により整備するもの。実施期間は, 9月から12月までの4か月間。もう一つが, 医療機関への緊急配付用抗原検査キットの配送で32万円。こちらも新規事業で, 抗原検査キットを確保出来ずに診療に支障を来している市内医療機関に対し, 緊急的に抗原検査キット2万セットを購入, 配付するもの。抗原検査キットの購入は国から2分の1の負担金があるため, 基金を充てていない。医療機関への配送委託料は国からの財源措置がなく, 32万円を基金から充当した。

資料4は, 第5次追加対策の事業で, 来月開会予定の令和4年度第3回定例会に補正予算として提案予定である。一つが, 発熱外来体制構築費で3,000万円を計上する。本年4月から9月までの発熱外来体制構築に係る予算は, 当初予算で計上しているが, 現在の感染状況を考え来年3月31日までの半年間延長しようとするもの。協力サポート医療機関, 休日当番医による診療体制維持のため医療機関に対する支援金, 医療機関に提供する个人防护服, マスクやフェイスシールドなどの購入費として3,000万円を計上する。もう一つが新型コロナウイルス感染症地域医療機関支援費という新規事業で, クラスター発生等に伴うかかり増し経費に対する支援金を医療機関に給付するもので, 4,000万円を計上した。

続いて資料5は, 令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策として本市が行ってきた, 予算ベースでの事業規模になる。令和2年度は事業費で486億円, その大半が国からの交付金などとなっている。次に本基金を充当したものが, 予算ベースで6,000万円となっている。令和3年度は事業費の総額で384億8,000万円となっており, 財源は国からの補助金や交付金が多くを占めている。基金は, 1億3,000万円。令和4年度は, 第4次追加対策として先ほど説明した専決補正までの分になり, 事業費総額で104億円, 本基金を予算上充当しているのが1億8,000万円となっている。令和2年度から令和4年度までの合計だと, 事業費で974億8,000万円で, うち国からの補助, 交付金が8割以上の805億3,000万円で, うち本基金は3億7,000万円となり, 今後も国から交付される臨時交付金や補助金, 本日検討いただく本基金も有効活用

しながら、状況を踏まえ速やかに対応していきたいと考えている。

(進行役)

第4次、第5次追加対策と令和2年度からこれまでの対策予算の合計についての説明だったが、質問等あるか。

(参加者)

国の交付金の活用が、令和2年度から令和3年、4年度と金額が減っているが、新型コロナウイルス感染症が収束するとのことで少なかったのか、内容も知りたい。

(事務局)

令和2年度の国費441億ほどのうち330億は、国民1人当たり10万円を給付する事業で全額国費のため非常に大きな財源となっている。令和3年度も低所得者に対する支援金や子ども1人当たり支援金を給付するなど、全額国費の事業が多く、国費が大きい要因となっている。令和4年度は現時点では全額国費の事業がないため、今後そういった事業があれば金額が膨らんでいくと思われる。

(参加者)

資料3(1)の抗原検査キット配付・陽性判定事業の検査キットは、どれぐらいの数を見込んでいるのか。

(事務局)

こちらのキット3万セットは、国から配付される。配送等は委託により市が行う。

(参加者)

基金に関連しないかもしれないが、どこから補助が出ているか知りたい。私が働いている職場で1週間ほど休んだ方がおり、電子レンジであたためるような食品がいただけありがたいかと言っていた。そのような食品等は、基金の用途に入っているのか。

(事務局)

自宅療養セットは、全額道の負担金で賄われ市費の持ち出しがないため、基金は活用していない。不足した場合は、補正予算として追加しなければならないが、財源は全額道費。

(参加者)

今回の検査キットという用途に賛成である。働いている医療法人でのクラスターは終息したが、今いろんな病院でやっぱり陽性者が増えていると感じる。

(進行役)

検査キットの配付は、大事なことだ。今の状態になって、特にそう感じる。

資料3に関し、財源の確認等も含めての質問だった。ほかにあるか。

(参加者)

公共施設の衛生用品や体温測定機械等は無くなったり壊れたりした場合、補充されるのか。

(事務局)

施設によっては国からの補助金が出ている場合もある。補助金を優先的に活用しながら、必要に応じ一般財源や基金を活用するなどして財源を確保していく。

(参加者)

来年度必要な感染防止対策は、感染状況にもよるが必要ないとはならない。残額を残し、少しずつ活用するのもあるかなと思う。1億ぐらい使えるなら、やれる対策は大きい。

(参加者)

抗原検査キット配付事業は、今回初めてやる。今後寒くなると発熱した人が来て、抗原検査キットで確認するのは大事だとの話もある。今はコロナとインフルエンザを一度に確認できる検査キットがある。具体的にどうPRするかがはっきり決まっておらず、委託に動いた方がいいかは判断できない。コロナとインフルエンザを両方確認できる検査キットは、冬になると必要になるかもしれない。そちらを使えるような柔軟性を持たせ、発熱患者を診なければならない。今までインフルエンザは少なかったが、今年はそうはいかない。インフルエンザをクリアするなど、判別が必要になる。

(進行役)

医師の立場から専門的な助言があったが、どうか。

(事務局)

所管する保健所とも話をし、柔軟に対応していきたい。

(熊谷部長)

これまでほとんどなかったインフルエンザが、今年流行する根拠を教えていただければ。

(参加者)

今年の夏は南半球でインフルエンザが流行しており、今後流行する可能性がある。国内の観光客や外国からも入国せず、日本国内の人の移動のみで観光客など人の動きがなかった今までは、インフルエンザの確認はほとんどない。道医師会の会議でも、過去2年間流行していないため、答えはない。注意をし、判別数が増えるかどうか。優先度をつければ、ワクチン接種ができる。学校などでは学級閉鎖になるなど、感染力が結構強い。

(進行役)

いろいろな意見をいただいた。資料3、4、5は、第3回定例会において基金の一部活用の提案をすることの説明、また今後の基金活用については、インフルエンザとコロナが両方判別できるキットもあるとのことで、そういった事業に充当することなど柔軟に対応していくといいのではないかと意見だが、いいか。ほかに何かあるか。

(参加者)

確認だが、夏祭りの参加者等に抗原検査キットを用意した。この時の財源に基金は活用しているのか。

(事務局)

夏祭りの実行委員会には、国の交付金を充てた形で財源措置した。

(進行役)

基金の今後の活用ということで、第4次、第5次対策の説明があったが、事務局からの提案について、承認いただくことでいいか。

(参加者)

一同確認

(進行役)

今後感染拡大や、急を要するものも出てくる可能性があり様々な対応が必要なため、国の交付金だけではなく基金も有効に利活用いただきながら進めていただきたい。資料2を見ると、基金は経済対策、市民生活対策、医療保健対策と幅広く活用されてきた状況だ。感染が続く中、寄附の申込みも資料1のグラフの開始時からみると、余り増えていない感

じもある。今後の基金活用見込額として1億1,000万ということだが、ここからはそれぞれの立場から意見をいただきたい。

(参加者)

来年3月までにどうなってるか。先ほど言ったように来年3月で3年ほど、その時に理想的に収束していれば、どのように使うか決まると思う。ただ今の状況では非常時に備え、残しておくしかないのかなと思う。

(参加者)

経済団体としては、経済は冷え切っており、今年度に入ってから宴会等も増やしている。基金と関係ないかもしれないが、何とか経済を回復していこうと商工会議所の会員限定でプレミアム商品券を販売した。これが好評で商工会議所の持ち出しも増えるが、会員事業所の協力をいただき実施した。また感染者が増え、会合等は行けないとの話もある。明るい話題としては、宴会等の営業を中止していたホテルが、12月1日から営業開始するとの話があった。

(進行役)

経済関係の情報提供をいただいた。続いて、近況や1億1,000万の今後の活用アイデアがあれば。

(参加者)

先ほども答えたが、今は無理に使わず何かあった時に使えるほうが安心。資料の円グラフを見ても様々な対策が行われバランスもいいので、いざという時に状況を踏まえ急ぎ必要な対策をすることがいいのではと思う。

(進行役)

資料1の円グラフを見ると、今話があったとおりバランスがいい。この検討会議が始まった際、どんな方向がいいのかとの意見もあったが、市で調整し活用が図られていると感じた。私事で恐縮だが、7月末に熱が出た子どもがいる方が抗原検査キットをドラッグストアに買いに行くと、全くない。結局、内科や小児科ではなく整形外科に行き、隣の薬局で手に入れたとの話も聞いた。やはり自分で実際に体験すると、今盛んに言われている全数検査の見直しなど、医療機関の負担軽減になるなど間接的につながるのではないかと、基金の財源充当だけではなく基金活用のコンセプトに入れておくことが大事かなと思ってきたところ。ほかに何か意見などあれば。

(参加者)

わかればいいが、これまで道外からの寄附金がかなりの額で、この基金が設置されると理解しているが、最近の状況はどうなっているのか。

(事務局)

ほとんどが、道外、市外。インターネットのポータルサイトからのふるさと納税で、本市の様々な基金の中から選択し申し込むという寄附が圧倒的に多い。または市内の個人や企業の方からまとまった金額をいただくなど、市内は金額が多く件数は少なくなっている。

(進行役)

資料1のグラフで寄附額が跳ね上がったところは、市内医療機関で起きた全国ニュースにもなったクラスターにより、全国の方が本市に目を向けていただき、この基金に何億も集まってきた。そういうことが起こらないようにというのが、出発点であったと思ってい

る。このあたりで意見交換を終わりたい。事務局においては、今日話が出たことを参考に今後の活用を進めていただきたい。

4 閉会